

町村に伺いました

訪問の様子とトピックスを随時お伝えしていきます。
更新をご期待ください。

-町村の皆さんからお話を伺いました- No.3

新得町役場

R2.5.27



農福連携が話題となり、行政がどのようにかかわっていくと良いかを模索されているというお話でした。また、地域の課題である人材不足に対し、大学からの依頼で福祉分野に対する職業体験(田舎体験)を行っているというお話も伺いました

課長補佐兼福祉係長の大山さん(左)、
主事の西尾さん(右)に、
ご対応いただきました



わかふじワークセンター

R2.5.27



コロナウイルスの感染予防に対する施設内の対策についてお話を伺いました。入所施設も併設していることから、利用者の健康管理を徹底している半面、休日の過ごし方に不安を抱えている利用者の生活の維持も同時に考え、安全に配慮しながら活動日を増やして対応しているということです。また、クリーニング業務などに対し、マスクを使用することで脱水状態になりかねないという懸念もあり、今後は暑さ対策への検討をしているということです

施設長の東さんにご対応いただきました



NPO 法人新得町共同作業所かりかち工房

R2.5.27



平成 10 年に開設した、精神障がいのある方が中心に活動されていた作業所です。法改正以降は、精神障がいをお持ちの方だけでなく、幅広い対象者も利用されているということです。特に、生活に対するサポートを行っているため、コロナウイルスの感染対策で行事が行えない状況は、皆さんにとって大きな影響があるとのことでした。

所長の堀内さんにご対応いただきました



新得高等支援学校

R2.5.27



在校生の就職支援と卒業生の定着支援に関し、情報交換をしました。地元の生徒が少ないということではありましたが、仕事の体験ができる実習先が少ないという話を伺いました。地元企業や生徒が住んでいる地域への働きかけはもちろん、役場との連携で地域の皆さんの障がい理解も考えたいということでした。

進路指導担当 特別支援教育コーディネーターの水野先生にご対応いただきました



清水町役場

R2.5.27



町がサービスの支給決定をしている方に対し、直営で相談支援事業所を行っているため、その後のモニタリングを定期的に行い、事業所の活動や個別支援計画の確認と連動がしっかり行われている印象を受けました。また、法的根拠を考えたとき、就労系の福祉サービスは通過型である関係者が意識することが大切という考えを伺い、全国的に起こっている就労相談の課題を改めて考える機会を頂きました。

保健福祉課福祉係 係長の阿部さんにご対応いただきました



今回の訪問は、新得・清水エリアに伺わせて頂きました。

相談支援体制や利用することの出来る社会資源に差異があること、町と住民と福祉サービスの結びつきの深さや地域に根づいている歴史の深みに、それぞれの地域の特色があると改めて感じる訪問となりました。

直営相談の強みを活かし、福祉サービス事業所のサービスの経過をキャッチし、計画相談とサービス等利用計画の連動を機能的に、きめ細やかに対応しようと心がけている清水町の考え、民間の相談支援事業所と地域の保健師のネットワークを活かし、行政との役割分担を意識した対応を組み立てている新得町と町の特色を活かした体制づくりを行っている印象を受けました。

町村の取り組みの違いがある中で、支給決定をしている町としての対応を考えて頂き、地域の核になる事業所やマンパワーが中心となりながら、今後も他市町村の活動とともに、相談者の希望と福祉サービスの利用の状況を共有したいと考えております。